

2019年度 前期 科目概要

文化史 Cultural History	
科目提供大学名	関西学院大学
担当教員	藤田 友尚(経済学部教授)
単位数	2単位
最大授業定員	54名
開講学期	前期1時限(10:50~12:20)、火曜日(4月9日~7月16日、4月30日(休日)は授業実施)
成績評価	出席、レポート
テキスト	使用しない。適宜、コピーを配布する。
参考文献	岡田暁生著 『オペラの運命』 中央公論新社 杉本淑彦・竹中幸史編著 『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房
参考文献	特になし
授業以外の学習方法	特になし
その他の特記事項	音楽的な知識は問わないが、クラシック音楽に関心があること。また、フランスの近現代史をよく知りたいと思う受講生に向いている。
講義概要	オペラは絶対王政の時代には王侯・貴族が自らの権威を誇示するための手段であり、フランス革命の時代には革命精神のプロパガンダともなった。近代になって、ブルジョワ階級は経済力に物を言わせ大掛かりな演出でパリ・オペラ座を有名にし、パリはヨーロッパ最大のオペラ消費地となった。このような「文化装置」としてのオペラに、政治権力は補助金や政令という手段で介入し、その表現にまで影響を与えていた。本講座では、こうした政治権力の安定化とオペラがどのように関わってきたのか、ルイ14世からマリー＝アントワネットを経てナポレオンに至るまで、歴史的視点に立って説明する。映像資料、音響資料を多数利用する。
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：オペラを知る：近代オペラの源流 モーツァルト『フィガロの結婚』 2. オペラの誕生とカストラート、フランスvs.イタリア 3. ルイ14世の政治とフランス固有のオペラ「叙情悲劇」 4. 18世紀のオペラⅠ：リュリからラモーへ 5. 18世紀のオペラⅡ：「ブッフオン論争」とオペラ・コミック 6. 18世紀のオペラⅢ：マリー＝アントワネットとグレトリー 7. フランス革命とオペラⅠ：啓蒙主的精神の影響、グレトリーとケルビーニ 8. フランス革命とオペラⅡ：共和国のプロパガンダ、ゴセック、メユール 9. ナポレオンの政治とオペラ：第一帝政の作曲家スポンティーニ 10. ナポレオン時代から「七月王政」：オーベールとロマン主義オペラ 11. ブルジョワ市民社会とグランド・オペラの成立：マイヤベーアとヴェロン 12. グランド・オペラの発展Ⅰ：外国人オペラ作曲家たち

13. グランド・オペラの発展Ⅱ：ベルリオーズ、グノー
14. 第二帝政とオッフェンバックの「笑う」オペラ
15. オペラと政治権力、まとめ